シンガポール・カンバンガン発

中国系シンガポーリアンの結婚式

これまでに数回、中国系シンガポール人の結婚式やウェディングディナーに招待された。

まず、日本と一番違うと感じたところは、招待客が着飾っていないところだ。フォーマルな服装をしているのは身内のみで、友人・知人は普段着と何ら変わらない。初めて招待された時、一応フォーマルに近い服装で行った私は、周囲を見渡して本当に驚いた。「えっ、こんな格好でいいの?」まさに「ちょっとその辺まで買い物にきた帰りに寄りました」というような感じなのだ。

そして宴の進行には司会者もいない。始まりの言葉と『飲勝』(“Yam Seng”:日本でいう『乾杯』)の時以外は何のアナウンスもない。ただひたすら、みな其々に飲んで食べて…というものだ。長いスピーチや二人の馴れ初めの話、会社の同僚・友人の余興もない。いたってシンプルで、最初は何だか物足りなく感じた。

しかし、そんなシンプルな会食もひとつだけいいなと思うところがある。それは、新郎新婦と家族が一番前の席に一緒に座り、食事をするということだ。日本の席順の話をシンガポール人に説明すると驚きを隠さない。「両親・祖父母は最も大切な人たち。一番前の席で一緒に座るのが当然」と話していた。西洋文化も大いに影響しているシンガポールであるが、家族を大事にする華人の教えは今も健在だ。

飯盛 洋子／シンガポール・カンバンガン在住

飯盛(いさがい) 洋子(ようこ) プロフィール

Taste Business Services Singapore; Manager

団体名 :SOHOアジア副代表
住　所 :39 Stamford Road, #02-13 Stamford House, Singapore 178885
Tel :+65 6334-8452
Fax :+65 6334-8453
E-mail :taste @soho-asia.com
URL :http://www.soho-asia.com
事業内容 :『九州のよいものを世界に!』というコンセプトのもと、九州の歴史や伝統文化を発信するアンテナショップを目指しています。
お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

スイス・ジュネーブ発

道端の「パリの名物」にはご注意を!

行ってみたい人気都市のひとつ「花の都」パリには、エフェル塔やルーブル美術館、凱旋門など有名な観光名所がたくさんあります。しかし美しい光景に気をとられ、まわりをキョロキョロしていると、「グチャ!」というありがたくない感覚が靴の裏から伝わってくるのもパリの名物のひとつ。道路をよく見ると、始末されていない犬の糞がそこかしこにあるのです。ですから、パリを歩く時には足下に気をつけるのが常識となっています。

このありがたくない評判に、とうとうパリ市も重い腰を上げたようです。この写真にある茶色い物体は“かりんとう”ではありません。「犬のう×ちを始末をしないと183ユーロ(約2万1千円)の罰金が課せられます」というポスター。はっきりいってフランス人は個人主義。このポスターがどのくらい効果を発揮するのかはわかりませんが…。

斉藤 聡克／スイス・ジュネーブ在住

斉藤 聡克 プロフィール

ハイジ財団オフィシャルパートナー

住　所 :47 bis rte de Florissant, 1206 Geneva, Switzerland
Tel :+41 22 346 0342
Fax :+41 22 789 2309
E-mail :saito@bmpof.ch
URL :http://www.heidi-heidi.ch　ハイジ観光日本語案内サイト
http://www.bmpof.ch/heidisindex.htm　スイス製品通信販売サイト
事業内容 :商品開発コンサルタント、ヨーロッパでのビジネス・コーディネート等。スイスからの通販サイト『ハイジのおつかい日記』の運営。

ボリビア・サンタクルス発

サバイバルなトラックの旅

ボリビア国内を旅行する交通手段のひとつに、カミオネーター(小型トラック)やカミオン(大型トラック)があります。ボリビア北部のベニ州では、長距離バスや路線バスの本数が少ないので、補助的手段として使用します。定期、不定期に通る小型トラックの場合は荷台に板を2、3枚渡してそれが座席となります。大型トラックは、荷物が少ない時や空荷の時に旅行者を乗せます。

ベニ州の州都トリニダ市からブラジルとの国境グアヤラメリンまでの約700kmのコースは、バスだと、乾季の道路状況が良い時で約30数時間、雨季で道路状況が悪くなれば70時間を越すこともあります。料金は約23~26ドルです。

さて昨年の11月半ばに、このコースのほぼ中間点になるルレナバケという町まで行った時のことです。

トリニダからサン・イグナシオ(ルレナバケへの中間点)に行くには、アマゾンに向かうマモレ川とその支流(合計3ヶ所)を渡し舟で渡らなければなりません。途中で車両が故障したり、泥濘で動けなくなったりする時も多々あるので、非常食が必要です。水は、川や水溜りがあるのでそれを使う人もいますが、都市で生活をしている人には使えません。トリニダを午前8時半に出発し、ユクモ(ルレナバケひとつ手前の町)に着いたのは、午後6時。暗くなったので、一泊することにしました。

ユクモのホテルは、料金が約3ドルですが、トイレは共同で流れが悪く、シャワーも共同で水しかでません。部屋には電気のコンセントはなく、電球がひとつぶら下がっているだけです(1993年に初めてこの町に泊った時は、電気はなくロウソクで、トイレもシャワーもなかったのですから、随分進歩はしているのですが…)。翌朝6時に乗せてくれるカミオンを見つけ、数名の同乗者と語らいながらルレナバケに到着したのは午前10時でした。

ちなみに、大半のボリビアのバスにはトイレはなく、短い時で3時間、長い時には10時間近く停まらないこともあります。健康管理ができていないと忍耐と苦痛の旅行となります。車両を停めるのは、運転手の判断一つで乗客の要求はまず通りません。最悪の場合は、座席の陰でビニール袋を使用し、窓から投げ捨てる、という手を使います。1994年に旅行した時には、座席に上がり、窓枠に膝を当て、背もたれにつかまり窓から直に用をたす場面にも遭遇しましたが、これは後部座席の人の顰蹙を受けました。ボリビアの陸路旅行には、非常食とビニール袋を必ずご用意のほどを。

佐藤 信壽／ボリビア・サンタクルス在住

佐藤 信壽 プロフィール

E-mail :nobutoshisato505@hotmail.com
事業内容 :日系団体アシスト(三箇所のボリビア国日系団体の事務局長を歴任する。最終経歴はリベラルタ・ボリビア・日本文化協会事務局長)現在はフリーで、産業開発の調査を行っている。

地球発 和僑タイムス

世界を股にかける「和僑ネットワーク」。各国に在住する特派員（ちょっとカッコよすぎ？）が現地で仕入れた生の情報を提供します。海の向こうから届く異国の風を感じてください。

※情報提供　和僑国際ビジネスネットワーク　http://www.wakyomall.net/

2003年（平成15年）
1月10日
金曜日

イスラエル・キブツ発
イスラエルは「ユダヤ教国家」？

一般的に、イスラエルは「ユダヤ人国家」といわれています。しかしハイファやアッコといった町では、ユダヤ教徒、イスラム教徒、そしてクリスチャンが混生した状態。これらはみな歴史ある古い町で、それぞれの宗教間のバランスがよく分かり、興味深いものです。

ハイファは、ペルシア（現イラン）発祥の宗教「バハイ」の施設（豪華で広大な庭園です！）のふもとにある町です。先日ユダヤ教のハヌカ、イスラム教のラマダン（断食）明け、そしてキリスト教のクリスマスを一緒に祝う祭がありました。カラメル山の斜面にある「バハイ」の庭園は無料で開放され、宗教を問わず多くの人で賑わいました。さらに庭園下にある別の町では、ユダヤ教徒とイスラム教徒、そしてクリスチャンが一緒に暮らしているのですが、ユダヤ人のピザ屋、ラマダン明けの甘いお菓子を売る店、クリスマスツリーの装飾品を売る店などが隣接し、みんなでお祭り気分を盛り上げていました。

私のサイトで扱っているオリーブオイル石鹸が作られるブキインという北部の村も、古くからユダヤ人とイスラム教徒それにクリスチャン、さらにはドルーズと呼ばれる少数民族が仲良く共存している歴史あるところです。そういったことを考えると、イスラエルは「多宗教国家」といえるのではないでしょうか。

萩原　均／イスラエル・キブツ在住

萩原 均 プロフィール

住　所　:Kibutz Givat Haim Meahud38930 Israel
TEL&Fax　:972++(0)4-636-8289
HP　:http://homepage3.nifty.com/shokijun/index.htm
Email　:sangha.hitoshi@nifty.ne.jp
事業内容:イスラエル政府公認ガイド.輸出入代行.
ハイテク関連技術書翻訳.

日本発
めざせ！「たれぱんだ」鑑定士

弊社が楽天市場に「たれぱんだらふぃーね」を開店したのは２００１年の7月。かつては日本中に大ブームをもたらした「たれぱんだ」だが、今や完全に落ち目となってしまった。

ところが先のブームでファンになった全国の人たちの間では、ホームページなどの自主的なコミュニティサイトを通じて情報交換が行われていた。それを見た筆者が小さいながらも参入するに値する市場があることを知り、オンラインショップ開店となったのである。

弊社の最大の魅力は、アジア各国で製作・販売されている海外の「たれぱんだ」製品を輸入し、販売しているという点にある。国外のグッズは各国の様々なお国柄を感じさせるものが多く、頻繁に新製品情報を掲載する弊社サイトを毎日のように訪れるファンも多い。タイ・台湾・香港などで買い付けを行うが、フリーマーケットのような市場では偽物が店先に並んでいることも多い。さすがに「たれぱんだ」専門店を経営していると、偽物と本物の区別が一目でつくようになる。タイや香港で見かける偽物はカバンや小物入れなどの実用的なもの、台湾ではぬいぐるみや置物が多いのが特徴だ。しかし偽物を見ると「たれぱんだ」に対するその国の人々の思いが伝わってくるので、旅先での“偽たれ”に出会うのが今や、ささやかな楽しみにもなっている。

いつの日か「なんでも鑑定団」の「たれぱんだ」鑑定士として出演するのが、もちかの私の夢である。

松本　肇／日本在住

松本 肇 プロフィール

会社名　:株式会社ラフィーネ
住　所　:神奈川県横浜市中区山下町1番地シルクセンタービル8階
TEL　:045(681)0901
Fax　:045(681)0902
Email　:webmaster@raffine.com（横浜経営学院）
URL　:http://www.yokokei.org/（NPO総務部）
URL　:http://www.wakyomall.net/npo/index.html
事業内容:2001年7月、楽天市場へオンラインショップ「たれぱんだやらふぃーね」出店。ラフィーネワンダービレッジ
URL:http://www.raffine.com/
NPO法人横浜経営学院の代表にして経営コンサルタント。